

「サムライ・スパイダーズ」 字幕台本の紹介

池田博明

「サムライ・スパイダーズ Samurai Spiders」は、ディスカバリー・チャンネルで制作されたカーリーナ・ホールデン Karina Holden 監督のドキュメンタリー映画（日本語字幕版は2005年8月放映）。日本のスタッフおよびキャストとして八幡明彦氏が協力した。解説音声は英語である。八幡は日本語字幕台本にもコメントしていた。資料に遺されていたこの日本語字幕台本を紹介する。台本の原字幕は短文だが、読みやすさを考慮して複数の字幕をまとめて表記した。文頭の数字は字幕ナンバーである。1) の次が6) の場合には1) には5文の原字幕があることになる。作品から編集で補った記述は [] 内に記した [編集：池田]

「サムライ・スパイダーズ」 字幕台本 八幡明彦

1) 日本には とても激しい武道があります。 [映像は相撲や剣道]

体当たりの相撲,

激しい剣道,

すさまじい剣術.

これらの武道は侍たちの遺産です

6) [加治木町でのクモ合戦] でも,まだ世界に知られていない武道もあります。それは クモの格闘技です。年に1度 世界最大のクモ格闘大会が開催されます。“くも合戦”です。ここでは日本のクモたちの真の闘いを見ることができます。

[タイトル Samurai Spiders]

12) [東京でのクモ・ファッション]
クモは世界中のいたる所にいます。
例えば 人口 1200 万の大都市であ



る東京でも、クモは身近な存在です。東京ではクモはファッションに取り入れられ、街には奇抜なクモ愛好家があふれています。

17) [八幡さん登場] ここにクモの世界に熱中する一人の男がいます。八幡明彦さんです [Peter Yawata と紹介されています (池田註)]。少年時代からクモに情熱を注ぎ続けた彼は、クモ研究者になりました。八幡さんはクモと人間が仲良く暮らす日を夢んでいます。

22) [八幡さんの自宅と家族] 八幡さん夫妻は娘さん 2 人と東京の下町に住んでいます。50 匹のクモも同居しています。幼いころからクモが大好きでした。すべてが魅力的です。彼はタランチュラに夢中です。誰もが好むペットとは言いがたいですが、彼は趣味の域をこえ繁殖の技術も探求しています。末娘の沙和ちゃんも風変りなペットが大好き。クモも遊び仲間なのです。

31) [マンションのベランダでコガネグモを飼育する八幡さん] 八幡さんはクモの格闘技に挑戦することを決意しました。この試合に参加するのはタランチュラではなく円網をつくるコガネグモです。名づけて“サムライ・スパイダー”。八幡さんも参加する“くも合戦”の開催地は、鹿児島県加治木町です。日本最大のクモ合戦なので激戦が予想されます。そこで八幡さんはクモを飼育して、たくさんの餌をやります。小さなクモを強化するための戦略があります。

40) [八幡さん語る] 「ひとつめはより早く成長させること。加治木町での対戦の前に、少なくとも一度は産卵をさせておきます」。餌にたんぱく質を強化したコオロギを食べさせるほか、栄養を補うため網に栄養ドリンクを吹きかけてもみます。「しかしその成分は秘密です。すべては公開しませんよ」。

47) [コガネグモの餌捕獲] 都会育ちのコガネグモは地元鹿児島島の相手と対戦します。加治木町で開催される“くも合戦”は日本一歴史のあるクモの格闘大会。温暖な加治木町ではコガネグモは大きく育ちます。くも合戦に出場するのは、攻撃性の高いメスだけです。お尻から糸を引き、宙にぶらさがります。壁を伝う姿は忍者のようです。クモは頭を下にして数日間じっと待ち続け、近づいてきた獲物を突然襲います。虫を誘う秘密兵器も持っています。“かくれおび”という糸の幅広い帯です。このリボン状の糸が紫外線を反射して、虫を誘うと推測する研究者もいます。伸縮性のある糸に捕われると虫は動けなくなります。この粘り気のあるトランポリンは簡単には逃れられません。飢えたクモは獲物に糸を巻きつけます。バッタが抵抗をやめるとクモは毒を注射します。毒でバッタを麻痺させ消化液を吐いて、溶かし始めます。液体になったエサを胃に送り込みます。目は 8 つですが視力は弱く、脚にある感覚毛で振動を感じ周囲の様子を察知します。

70) [加治木町民がクモ捕獲] 夏に向け虫を食べて成長したクモを、加治木町の人々は畑の周辺で捕獲します。狙うのは巨大な網を持つ長い脚のサムライ・スパイダーです。クモたちはくも合戦の選手として訓練されます。くも合戦の達人たちは、自分がクモを

捕獲した場所を絶対に他人に知らせません. よそ者に対してはなおさらです [新参者は英語では **Rookie**, よそ者は **Outsider**].

77) [加治木町民と一緒にクモを採る八幡さんと沙和ちゃん] 八幡さんは娘の沙和ちゃんと加治木町へ都会のクモの練習相手を探しに来ました. 新参者であり都会人である彼をどう扱うべきか, 地元の人とはとまどいます. 彼らは八幡さんを素人と見なしていいか迷います. タランチュラ飼育の経験から得た策略があるかもしれません. 伝説の戦士となるには 巧妙さと速さ, それに攻撃的な本能が必要です. くも合戦は同種で争う性質のあるクモ同士の闘いです. [戦士は英語では **Warrior**]

85) [剣道] 日本の武道には侍の精神が宿っています. 武士道は武術の枠を超えて, 武人の生活のあらゆる面に浸透しています. 基本となるのは, 勇気と名誉と礼です. 4世紀以上の歴史を持つクモの格闘技にも, 武士道と通じるものがあります.

91) “武士道は すべてに通ず” 宮本武蔵 [The Way is in everything]

92) [加治木町のクモ合戦の季節] サムライ・スパイダーの故郷, 加治木町. 地元の人々は ここを “クモの町” と呼びます. 毎年 世界最大の “くも合戦” が開催されます. 大会を間近にひかえた今, クモは練習試合のただなかです.

96) [町民 (行司さん) の家のなかでのクモの鍛錬] それぞれの家の中で, クモは大切に扱われています. クモたちが扉の向こうに隠されるのには理由があります. サムライ・スパイダーの秘密練習のためです. ライバルに自分の選手をのぞき見されないように, クモは家の中で飼います. 各部屋の隅に各々の網を張らせ, 大会に向けての特訓を行います. 飼い主をかむことは まれですが試合相手には激しく立ち向かいます. 人間にとってはハチ刺され程度でも, クモには 互いの牙は致命的です. 飼い主はクモが傷つけ合わないよう細心の注意を払います.

108) [クモ合戦の勝敗 (アニメ)] くも合戦は 殺し合う戦いではなく, 技の勝負です. 試合のルールは簡単です. 相手の腹部に糸を巻くか, 腹部を咬む. または 相手の牽引糸を切ると, 勝ちとなります.

112) [ナガタニさんの訓練] 加治木町の長谷さんは庭にクモ飼育場所を作り, くも合戦用に 毎年育てて 60 年以上になります. 「長年 家の中で飼っていたんだが, 部屋がクモのふんでいつも汚れる. それを掃除するのに妻も子どもたちも苦労していたよ. 妻たちに言われて, クモを外で飼うことにした. 妻は 本当はクモが好きではないが, あきらめているようだ. 飼い主から技を習うことは難しそ





うです。しかし 飼い主は練習で、クモの強さと闘志を見ぬきます。飼い主はクモが負傷しないよう注意します。くも合戦をベストな状態で迎えるためです。124) [コガネグモの姿] くも合戦の参加者たちは自分の知識を秘密にします。通常は よそ者を歓迎しません。しかし彼らの意思とは関係なく、今年は新たな挑戦者が現れました。

127) “戦いには知恵が必要である” 宮

本武蔵 [Strategy is the craft of the warrior]

128) [自宅でコガネグモを鍛錬する八幡さん] 東京に戻った八幡さんは、くも合戦に向けて準備を始めます。鹿児島の大きなクモとの対決は、勝ち目がないように見えます。そこで大きさと力の差を速さと技でカバーしようと戦略を立てました。「今年は鹿児島のクモも採集しました。出場させるためではなく訓練で使うためです。普段から 鹿児島の大きなクモと対戦させておけば、何匹かは鹿児島のクモに、勝てるかもしれません」。沙和ちゃんは父親のクモと相手の対戦を記録します。「鹿児島のクモは本当に巨大で強いので、東京のクモが勝つのは難しいかもしれません。特別なテクニックを持つクモを見つける必要があります。例えば 咬むことや糸を切ることが得意だったりね。最も技に優れたクモをこれから選びます」。糸を出すのが素早い有望なクモがいました。名は“ブライド(花嫁)”。糸のボールで相手を縛りつけます。しかし そのほかのクモはまだまだ闘える段階ではありません。家でクモを飼うのは奇妙に映るでしょうが、日本では こうしたペットをよく見かけます。理由は東京の住宅事情です。散歩の必要がなく、場所を取らない無脊椎動物は、好都合なペットです。

152) [東京のペットショップ] 東京の裏通りには、さまざまな生物を売る風変わりな店があります。八幡さんは店で人気上昇中のタランチュラの幼体を売ります。東京の若者たちは都会で飼うのに この奇妙なペットは最適だと気づき始めました。

157) [虫を愛でる浮世絵や舞妓] 日本人は昔からまれに見る虫好きです。数千年前から スズムシをペットにしています。クモへの愛着は千年前にさかのぼります。クモは心情と関連づけられていました。女性はクモの動作を短歌に詠み、秘めた思いを伝えました。“朝グモは縁起がいい”とも言われています。また 古代にはクモを箱に入れて網を張らせ、糸の編み方で将来を占うという風習もありました。本当に占えるかはともかくクモには不思議な能力があります。

167) [コガネグモの造網] クモは網を作るとき糸を紡ぐのではなく絞り出します。もともと糸は体内では液状です。クモは出糸突起から粘着性の糸を絞り出し、網の枠糸に粘着糸をくっつけていきます。スプーン1杯の液で、1万個の網が作れます。まずは粘

らない糸を渦巻状に張っていき、次に外側から同様に粘着性の糸を張ります。わずか10分で約800メートルの糸を出すことができます。

175) [カイコの飼育, 絹糸取り, 機織り] クモの糸を求めて長年 養殖が試みられました。しかし 成功しませんでした。クモには縄張りがあり、共食いをするからです。代わりに 集団で暮らす草食生物が飼育され始めました。何千、何万匹の仲間と共に暮らすカイコです。最初にまゆから絹を取った中国人は、2500年以上もの間 それを極秘にしていました。カイコの秘密は守られ漏らした者は死刑になりました。5世紀に中国の王女が、カイコの卵を髪の毛に隠して密輸したという伝説もあります。秘密が明かされると日本は絹に夢中になりました。今や日本は世界有数の絹生産国です。一枚の着物を織るのに2010匹のカイコが必要です。

188) [コガネグモの網] しかし、カイコの糸に比べて、クモの糸ははるかに強力です。弱く見えても クモの糸には鋼鉄以上のひっぱり強度があります。技術者の計算によれば 鉛筆の太さのクモの糸で網を張ると、飛行機を空中で止められます。

192) [土蜘蛛退治の図] 武士も 糸の強さは知っていました。クモとクモの糸が登場する名な説話があります。源頼光と土蜘蛛が戦う話です。土蜘蛛の糸に捕らわれた侍が命懸けで戦います。最後には大グモを刀で刺し殺し、かろうじて脱出します。

197) [再現映像・侍がクモ合戦に興ずる] 侍とクモのつながりはまだあります。くも合戦を始めたのは侍だと言われています。町の言い伝えでは 起源は16世紀です。武将の島津義弘公がいくさの前夜にくも合戦を命じたのが始まりです。兵士を勇気づけるための手段でした。くも合戦が始まったと言われるのは 1595年。文禄・慶長の頃の頃と言い伝えられています。

205) [戦争直後のクモ合戦の写真] 戦争や火山の噴火、そして長崎の原爆など、4世紀に渡る不穏な時代の中、くも合戦は存続しました。1945年 日本が連合国軍に降伏したとき、加治木町はくも合戦を再開しました。荒廃した町で 人々は伝統を守るため 集まりました。アメリカ兵も観戦しました。くも合戦のような一見すると奇妙な行事は、日本中で 数多く開催されています。

213) [各地の祭り] 毎年夏 男たちは、みこしを担いで街をねり歩きます。色彩豊かで活気ある祭りは神道の精霊信仰に基づいています。豊作を祈って始められた祭りです。今日でも人々の活気は失われていません。日本には中世の宗教儀式が多く残っています。古い時代への畏敬の念が加治木のような町の独特の文化遺産を守ります。

220) [大会前ではなく翌日の校内くも合戦] 加治木町は くも合戦の開催を真近に控えています。大会の前後には小学生版の試合も行われます。

222) [八幡さんや長谷さんのクモ合戦準備] 大会に出場するクモは、すでに準備万端です。勝者は地元のクモか・・・, あるいは都会育ちのクモなのか。都会のクモは田舎のクモと張り合えるのか。期待が高まる中、くも合戦への秒読みが始まります。

227) [加治木町および桜島の自然] 鹿児島島の煙を吐く火山のふもとで大きく成長した

サムライ・スパイダーたち。肥えた大地と温暖な気候で虫が豊富にいる この地はクモの天国です。その静寂を破るのは時折降る火山灰だけ。しかし そんな状況に素早く適応するクモもいます。クモは 噴火後の火山の傾斜面にいち早く住みつく生物です。桜島は世界有数の活火山であり、毎年 数十～数百回 噴火します。最後の噴火は 1914 年で、破壊的な地震を伴いました。桜島の噴火や地響きは住民にとって毎日の生活の一部です。地鳴りがしても生活は変わりません。

240) [町民たちのクモの鍛錬法] 加治木町のクモ男たちもクモの”訓練”を続けます。町には 独自のクモ飼育方法を持つ優秀な飼い主が多くいます。優勝するには数十年の経験が必要です。クモの習性や個性を学ばなければなりません。テントの中で網を張るメスたちに飼い主はコガネムシを与えます。訓練の達人たちは、昨年の優勝者の子孫をより大きく強く育てます。勝つ可能性が高いクモには絶食をさせます。空腹だと闘争性が高まるからです。クモを勝負に駆り立てるために、砂を少し振りかけます。練習では小さなクモと対戦させることで、勝利の味を覚えさせます。また 飼い主たちは産卵後のクモが強いと言います。「母は強し」と信じられています。しかし 注意が必要です。メスは相手を傷つけたり、殺したりすることがあります。対戦中は 片方に危険が及ぶと、息を吹きかけ2匹を離します。しかし 野生の世界では恐ろしいメスは共食いの性質を発揮します。

259) “勝利には死への覚悟を要す” 宮本武蔵 [To win the battle is to be prepared to die]

260) [コガネグモの求愛と交尾] オスとメスの体格の違いが交尾を危険なものにします。オスはメスの大きさの5分の1しかありません。オスの小さな体の利点は動作が素早いこと。しかし オスが求愛をするときは常に命懸けです。任務遂行のためには“討ち死に”せざるをえないことも。オスは 成熟したメスのフェロモンに誘われ近づきます。メスの網でオスは存在をアピールします。とても慎重に…オスは網を歩きながら振動を発して 求愛します。糸をかき鳴らし、恋の相手を口説きます。メスが獲物をしゃぶる中、オスは行動に出ます。まずはメスに触れ…、続いてメスに近づき、腹部を直接たたきます。こうして求愛が受け入れられたかを確認めます。メスは交尾をせがむ



オスを乱暴に扱います。メスに払いのけられても、オスはあきらめません。突然 メスが攻撃に出ました。オスは命がけの任務を終えましたが 脚を失いました。メスはオスの脚を残りの食事と共に包みます。脚は失ったものの命拾いました。メスの意思は明白です。“食事をじゃまするなら、あんたも食べちゃうよ！”

282) [水田での八幡さん] 八幡さんは 関東

郊外でクモと里山環境の研究をしています。里山のスパイダーマンなのです。「この水田でクモの調査をしていると地元の人に会います。自然環境をまもるために調査していると説明します。クモは豊かな自然の指標だとも語ります。そう聞いて驚くのは、クモが生態系にとって重要だと知らなかった人々です。しかし中には“うちの田は殺虫剤を使わないから”“クモが多いだろう”と言う人もいて 会話がはずみます」。加治木町よりも関東のコガネグモは小型ですが、農地の害虫を食べるクモの役割は同じです。「重要な役割を担うクモのことをもっと皆にわかってほしいです。クモの重要性をよく知っている農家の人たちもいます」。

296) [ハエトリグモやハナグモ] よく見ると水田には百種類を越すクモがいます。網を張るクモから小さなハエトリグモまで、水田はクモであふれています。

299) [ネコハエトリのオス間威嚇誇示行動] コガネグモ同様、ネコハエトリも戦士です。複雑を極める闘いはオス同士のもので、数秒から長いときは1分以上も続き、どちらかが逃げ出したら終わりです。

303) [学校前で子供たちがホンチ遊びに興ずる] この闘争は面白いので、日本の子どもたちは小さなクモを闘わせて遊びました。ハエトリグモは押ししたり突いたり、力士のように闘います。

306) [相撲とホンチ遊び] 相撲では力士たちは強烈にぶつかり合います。一瞬ですがその力は驚異的です。クモも同様に劇的な闘いを見せます。ミニチュアの相撲です。どちらも対戦前に力を誇示する儀式があります。腕を振って、脚を上げて、前に進んで、ぶつかり合います。両者組み合って相手の体を投げ飛ばそうとします。ネコハエトリは豆粒ほどの大きさですが、大男と同じく、めざましい闘いをします。

317) [加治木町に残るクモ合戦跡] クモ遊びは広く行われていましたが、日本の都市化が進むにつれ、急速に消えていきました。加治木町だけは、その波にさからっています。町では世界最大のクモ行事である“くも合戦”が間近です。

321) [自宅から加治木へ出かける八幡さん] 東京では八幡さんが加治木町へ向かう準備中です。娘の沙和ちゃんも選手選りびを手伝いました。期待の選手は“ブライド”です。よそ者は苦戦すると承知していますが、家族の声援とクモの闘志に支えられ、彼の旅は始まります。

326) [東京のビル街の夜、加治木町は遠い] 八幡さんは夜、南へと向かいました。加治木町は東京から千キロですが、大都会とは全く異なります。八幡さんの現代的な手法が地元の人に通用するでしょうか。関東のクモの評判が、かかっています。

330) “戦いは誰が最後に残るかである”無名子。 [War is not about who is right, it's about who is left]

331) [加治木町でのクモ合戦当日] くも合戦の朝、150人の大会参加者たちが自分のクモの参加の手続きをします。参加資格は各人3匹のクモを出場させること。1匹のクモが3連勝すると王将戦の部へ進出です。負けると勝ち抜き戦を外れます。マルは勝利

を表し、バツは負けを表します。

338) [会場で準備する八幡さん] 八幡さんは人混みの中で目立っています。独学のクモ格闘家は、よそ者という感覚をぬぐえません。「加治木町の人たちはそれぞれ強いコガネグモの育て方を秘密にしています。互いに その話はしません。そういう意味で、私は“よそ者”なのです」。

344) [優良グモの審査] 彼のクモも 巨大なクモたちの中で“よそ者”に映ります。合戦の前に「優良ぐもの審査」があります。審査基準は 均整のとれた体、そして長い脚と色つや、審査員は脚のスラリとしたクモに女王の栄冠を与えます。

348) [クモ合戦開始] 観客が集まり試合が始まります。棒上の土俵で 500 試合



が行われます。熟練した行司の鋭い目がクモの一瞬の動きを判定します。各クモが最大 3 回対戦します。素早く激しい闘いです。1 匹が 3 連勝すると王将戦への出場が決定します。競馬を見るかのように観客は好きなクモを応援します。

354) 八幡さんも真剣に観戦しています。「試合の間 クモの飼い主の様子は、それぞれ異なります。対戦の可能性のあるライバルを真剣に見ている人もいれば、リラックスしている人もいます。そういう人たちは対戦表を見た直後から少なくとも 2 勝あるいは 3 勝する自信をのぞかせます。参加者を見るのも、とても面白いです」。

361) [クモの対決] メインイベントを前に観客が近くで見ようと集まります。次は八幡さんの番です。対戦相手は 最強の参加者の 1 人真さん。若いですが この数年間くも合戦で活躍しています。東京のクモの実力を把握するため八幡さんは まず小さなクモで闘います。両者いいスタートを切ります。しかし鹿児島 of クモの方が数段上です。でも 彼はあきらめません。鹿児島 of クモに勝つために秘密兵器を投入します。“ブライド” の入場です！

372) [会場の様子] 会場にはクモが苦手な人などいません。クモ格闘家たちが集う年に 1 度の大会です。サムライ・スパイダーの対決を見に 大勢が訪れます。

375) [主役のクモの対決] 八幡さんは最終戦のため最強のクモを温存していました。このクモの得意技は相手を糸で捕らえることです。その名は“ブライド”。再び 真さんのクモが対戦相手です。先ほどは完敗でした。しかし，“ブライド”は準備万端。八幡さんは今回こそはと期待をかけます。試合を前にした 2 匹は、互いの様子をうかがい

ます。16 個の目で見合っています。闘いは 脚の連続技で始まりました。“ブライド”は相手を縛ろうと糸を引き出します。両者一步も譲らぬ激しい闘いです。“ブライド”が相手に糸を投げかけます。しかし わずかに届きません。糸の先に垂れ下がる彼女はピンチに陥ります。ぶらさがった糸を切られ、勝利は鹿児島クモの手に。残念ですが 八幡さんは敗北を潔く受け入れます。地元の人々は彼に慰めの言葉をかけ、敬意を表しました。「実際 司会者の方は試合の間ずっと、<やわた、小さいです！>と言っていました。技術で勝負しようと思いましたが、鹿児島のクモはとにかく巨大でした。私のクモは相手に糸を巻こうとしていましたが、脚が短かくて相手に届きませんでした。逆に鹿児島のクモは脚が長く、余裕で私のクモに届きました。あんな強敵と対戦するとは今年運が悪かったです」。

403) “名誉の敗北は 不正での勝利に勝る” 武士の処世訓 [A glorious defeat is better than victory archived with the wrong attitude]

404) [王将戦] 八幡さんのクモを破った真さんは王将戦に進出しました。優勝をめざして闘う王将戦には女性の姿も。強いクモ同士の激闘です。クモの取り組みに一同が息を飲みます。勝ちぬいたクモ同士の接戦です。糸をぐるぐるに巻かれ、棒に縛り付けられます。行司はクモが噛まれる前に止めに入ります。勝利の喜びの一方で、真さんは、闘い半ばで惜しくも破れました。

413) [表彰式] 最後は表彰式です。大会を制したのは女性でした。王将戦への進出を逃したものの八幡さんも注目を集めます。地元の人たちは 彼が東京で育てているクモに興味を抱きます。「地元の人たちは私の飼育したクモに興味を持ちました。今後もここに来て挑戦を続けたいです。いつか3勝グモを出したいですね」。

420) [クモ合戦点描] 奇妙に感じるかもしれませんが、クモへの情熱が加治木町をひとつにしています。400 年以上もの長きに渡り、クモが人々をつないでいるのです。

424) “すべての真実は自然観察から得られる” 無名子 [All truth comes from the observation of Nature]

425) [朝日が昇る] 朝日が新たな一日を告げます。

426) [クモを放す町民たち、コガネグモの産卵・出囊・分散] くも合戦終了後 クモは元の自然に戻されます。野生のクモとしてこれから交尾相手を探し、繁殖に励みます。メスは安全な湿ったやぶで卵のうを産みつけます。一つの卵のうから最大 2000 匹以上の子が生まれ 育っていきます。産卵から約一ヶ月後、赤ちゃんグモが姿を見せます。おびただしい数のクモが自然の中にあふれ出します。一年後には この小さなクモも立派な戦士となるでしょう。夏の終わりには 子グモたちは巣立ち、自分で網を作ります。

434) [バルーンング] 上空でタカが輪を描くころ、小さなクモたちも温かい空気を感じ、高い場所に上ります。空に向けて糸を出すと、糸が風をひろいます。気球に乗っているようにクモは風に飛ばされます。多くは近場に落ち、藪にからむ糸を行き来します。しかし 大地や海を越え 遠くへ飛ばされることもあるでしょう。本州に届くかもしれ

ません。八幡さん親子のいる水田へたどり着くかもしれません。

442) [里山の俯瞰] 日本のクモは 人々の好奇心を引きつけてやみません。

[エンド・クレジット 脚本・監督 Karina Holden, 撮影 Peter Nearhos ACS, 編集 Daryl Burney, ナレーター Neo Swee Lin, ロケーションマネージャー Reina Endo, クモ合戦助言(Non-credit) Nobuhiko Taniguchi]

[編集子より：本稿は 2005 年 7 月 19 日八幡執筆のファイル「サムライスパイダーズ再修正版」をもとに作成した。ところどころ字数が多いため字幕スタッフから文字数の削除を要請されている箇所があり、完成台本は本稿とはやや異なると思われるが、八幡の意向を尊重する意味で最終版との照合は行っていない。なお通常見ることの出来る作品は英語版なので日本語字幕は付されていない（池田）]。



STAFF

John, Reina, Yawata, Karina and Peter



Yawata and Taniguchi